

公民館の図書室は 学びの入口・みんなの本棚

図書室月報

2025年(令和7年)
5月5日 第744号

PDF版

国立市中 1-15-1
TEL.042-572-5141
FAX.042-573-0480
国立市公民館

(2024年10月19日、11月2日開催 文学のなかの国立とあの頃 講座参加者の感想)

「文学のなかの国立と
あの頃」に参加して中地 幸^{さち}

国立を描いた文学作品、とりわけ多和田葉子の芥川賞受賞作『犬婿入り』を中心にした講座が10月19日および11月2日の2回にわたって開催されました。

第1回目は沿線文学研究者である矢野勝巳^{かつみ}さんによる講義でした。矢野さんは、2023年5月に『文学する中央線沿線 小説に描かれたまちを歩く』を上梓されていますが、今回の講座では、20頁にもわたる資料が配布され、嵐山光三郎、小島信夫、山口瞳、山口正介、東峰夫といった国立に在住していた作家、また辻井喬、志茂田景樹、南木圭士、赤川次郎、亀和田武、田中康夫、向田邦子、村上春樹、黒井千次、長嶋有、東川篤哉、三浦朱門など国立にゆかりのある作家について丁寧な解説をしてくださり、その後、多和田葉子の『犬婿入り』を多面的にご紹介くださいました。国立の文学的土壌を理解することができて、大変有意義でした。

とりわけ面白かったのは、『犬婿入り』の芥川賞選評が賛否両論だったというお話で、この作品を推した大江健三郎、黒井千次はこの作品が地域を描いた作品であることを高く評価したとのこと。また受賞に際して、多和田葉子は「文学を職業としている人たちに学ぶことはもちろん多いが、そうではない人たちの言葉に学ぶところも常に大きい」とネガティブな評価を下した選評委員に「逆襲」したのだと矢野さんは愉快そうに語りました。さらに多和田が「土地はそこに来た人間を下から蹴り上げる。踏まれつばなしではない」と語っていたことをあげ、多和田らしいユーモラスな表現とコメントされていました。

地域情報が多いこともこの講座の魅力でした。多和田が「学校群制度」という高校入試形態の世代だった

ことは初めて知りました。また田んぼの中に突如建てられた富士見台団地の姿や雑木林がうつそうと立ち並ぶ戦前の国立駅北口の様子など、国立の変遷には驚かされました。

第2回目は国立の南部地域の散策でした。矢川駅前が集まった途端に大雨となりましたが、歩き始めたら雨はすぐに弱くなりました。神社で降る雨は、神様の歓迎の証と聞いたことがあります。今回の散策初めの雨も国立の歴史の旅をしようとする参加者への祝福の雨だったように思えます。国立は立川段丘、青柳段丘、多摩川低地と分かれており、ハケと呼ばれる崖の下には湧き水があふれています。今回は『犬婿入り』で、団地のある「北区」に対比される「南区」を歩く旅で、富士見台団地から、南武線の線路を渡り、南養寺に立ち寄り、くにたち郷土文化館、城山公園、谷保天満宮を歩きました。実際歩いてみて、水の豊かなこの土地が縄文時代に一等地であったというのも納得できました。

行程の中間地点となるくにたち郷土文化館では、縄文時代から中世、江戸時代、そして戦前から戦後に至るまでの国立の歴史について、安齋順子学芸員から詳しい説明を受け、また国立出身の彫刻家關敏^{せきひん}さんの作品の展示を見ました。散策は、江戸時代に開通したという甲州街道沿いの谷保天満宮梅林で解散となりましたが、『犬婿入り』の舞台であるキタムラ塾は神社の梅林を抜けたところにあります。静かな秋雨の中、桃色のよれよれのタンクトップを着たみつこが現れそうな梅林の裏出口をぼんやりと眺めていると、参加者たちはいつの間にか梅林から消えていました。

〈2024 年 7 月～11 月開催 作家と作品参加者の感想〉

「作家から見つめる韓国現代文学」に参加して 小林 真希

韓国の作家のハン・ガンさんがアジア人女性で初めてノーベル文学賞を受賞したのは、7 月 28 日から始まった講座の第 3 回が開かれる少し前のことでした (注)。講師である韓日翻訳家の小山内園子さんは「ハン・ガンの『別れを告げない』という小説は、日本では今年 (2024 年) 3 月に出版されましたが、まだ英語には翻訳されていません。ノーベル賞を取ったことで、これから英米圏でも読めるようになるでしょうが、日本では先に読めたということ。それがすごいのです」とお話されました。原著は 2021 年に発売されたそうですから、それからわずか 2 年半ほどで邦訳版が出ている。韓国文学を楽しむにあたって、わたしたちはとても恵まれた環境にいることを知りました。

この講座では、5 人の作家に注目し、その作家性を切り口に韓国文学が持つ魅力について解説がありました。特に印象的だったのは、日本のみならず世界中でヒットした『82 年生まれ、キム・ジョン』を書いたチョ・ナムジュの話です。『82 年生まれ、キム・ジョン』は、1982 年生まれの韓国女性に最も多いジョンという名前の主人公を通じて、女性にとつてある種普遍的な困難を淡々と綴った小説です。例えば、ジョンが高校生の頃、帰宅途中のバスで男子生徒から付きまとわれて怖い思いをします。同じバスに乗っていた女性が異変に気付き、ジョンを助けてくれますが、迎えに来た父親は、ジョンの服装や態度に「隙」があったと彼女を叱ります。同じ

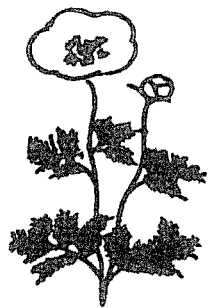
経験をしたわけではないのに、このときジョンが感じたであろう悔しさは、たしかにわたしも知っています。一方で、ここまでストリートに女性の苦悩を描いた作品が 100 万部も売れるということは、韓国には女性のつらさを知り、共感したいと思っている人がたくさんいるのだらうと思っています。しかし、小山内さんの話によると『82 年生まれ、キム・ジョン』が多くの女性を励ました裏で、著者のチョ・ナムジュだけでなく、この作品を読んだことを表明した芸能人でさえも大きなバッシングにさらされたということです。その苛烈さは想像以上でした。

女性のつらさを知ること、男性のつらさが軽んじられると思うのでしょうか。過去に女性を傷つけた経験を思い出してしまうからでしょうか。そもそもこの小説がヒットすることに不都合を感じたのは、男性に限らないかもしれません。女性であるわたしたちで、無知や幼さから女性差別に加担した経験が無いとは言いきれませんが、バスでジョンを助けた女性のような勇敢さを持っているのか、自問しました。

さて、全 4 回の講座を終えたとき、小山内さんからこんな話がありました。韓国文学を日本に紹介することによって、韓国人にとつて大切な日や歴史的な出来事を、日本人がエンタメ的に消費することを助長してしまっているのでは感じた、というものです。女性差別だけでなく、経済的な格差や就職難、受験競争などの社会問題

から、光州事件やセウオル号沈没事件など、韓国の国民にとつて大きな傷となった出来事が文学のモチーフとしてよく登場します。文学作品を通して韓国の人々の「痛み」の一端を知ることができると言えますが、隣国のわたしたちがわずかな手がかりををもって簡単に共感を示し、同情することには傲慢さを伴うと気づきました。それと同時に、とても困難な試みにもかかわらず「文学を通じて韓国のことを知りたい」という共通する思いを持って、多様な背景を持つ皆さんがこの講座に集い、理解しようとした時間がより尊く感じられました。

(注) 台風のため第 2 回より実施日を延期し第 3 回は 10 月 26 日 (土) に行いました。



くにたちブッククラブ

—自分と「似ているもの/似ていないもの」—

森鷗外『舞姫』(新潮文庫)

※文庫の書名は『阿部一族・舞姫』

講師 山岸 郁子
(日本大学・日本近代文学)

とき 5月8日 (木)
夜7時半～9時半

ところ 公民館 3階講座室
申込先 公民館 ☎(572)5141



▲ 講座詳細

*5月から、8回にわたり様々な日本の文学作品を味わう「くにたちブッククラブ」が始まります。年間予定など、詳しくはホームページをご確認ください。



▲ 講座詳細

新着図書から

〈総記〉

インターネット文明

村井純 (岩波書店)

007

戦争と図書館

新屋朝貴 (日本図書館協会)

010

ゼロからの著作権

宮武久佳 (岩波書店)

021

〈歴史〉

きょうだいの日本史『日本歴史』編集委員会 (吉川弘文館)

281

女の氏名誕生

尾脇秀和 (筑摩書房)

288

寿岳章子女とことばと憲法と

遠藤織枝 (かもがわ出版)

289

気候地名をさぐる

吉野正敏 (吉川弘文館)

290

夢二の東京さんぽ手帖

石川桂子 (中央公論新社)

291

地名の魔力今尾恵介 (PHPエディタース・グループ)

291

〈社会科学〉

韓国は日本をどう見ているか

金暉和 (平凡社)

302

新版 地図で見る中東ハンドブックピエール・ブラン

302

九月はもつとも残酷な月 森達也 (ミツイパブリッシング)

304

アメリカ黒人の歴史

上杉忍 (中央公論新社)

316

ヘイトクライムに立ち向かう 櫻庭総編著 (日本評論社)

316

ロシアから見える世界 駒木明義 (朝日新聞出版)

319

憲法

木村草太 (東京大学出版会)

323

ゾンビ家制度

竹信三恵子 (あけび書房)

324

冤罪を追う

鎌田慧 (皓星社)

327

船上の助産師

小島毬奈 (ほんの木)

329

ポツタリひとつで海を越えて 小泉和子編著 (合同出版)

334

エスノグラフィ入門

石岡丈昇 (筑摩書房)

361

フェイクニュースを哲学する 山田圭一 (岩波書店)

361

妊娠したら、さようなら 女性差別大国ニッポンで苦しむ

366

技能実習生たち 吉水慈豊 (集英社インターナショナル)

366

老いは孤立を誘う

山口道宏 (はる書房)

367

自閉症の僕が家を建てた理由 池田侑生 (中央法規出版)

369

自分らしく、あなたらしく 高橋うらら (さ・え・ら書房)

369

地震を知って震災に備える 平田直 (亜紀書房)

369

結婚も出産もせず親になりましたベク・ジソン (大和書房)

369

〈自然科学〉

タイムカプセルの開き方 種生物学会編 (文一総合出版)

468

異界の歩き方

村澤和多里 (医学書院)

493

D.T. カギゾエ歩く処方箋 垣添忠生 (朝日新聞出版)

494

不自然な食卓 クリス・ヴァン・トゥレケン (早川書房)

498

〈工業〉

ニッポン茶室ジャーニー

藤森照信 (淡交社)

521

宮田珠己の楽しい建築鑑賞 宮田珠己 (エクスナレッジ)

523

ほんまに「おいしい」って何やる? 村田吉弘 (集英社)

596

季節の保存食 山田奈美 (マイナビ出版)

596

〈産業〉

わたしの農継ぎ

高橋久美子 (ミシマ社)

610

〈芸術〉

手仕事の世界 有吉玉青文・黒澤淳一画 (彩流社)

750

ミュージカルの解剖学

長屋晃一 (春秋社)

775

〈文学〉

日本近現代文学史への招待 山崎義光 (ひつじ書房)

910

ゆうすげ色の月

江森節子 (書肆侃侃房)

911

宮澤賢治心象スケッチ十の旅 澤口たまみ (岩手日報社)

911

原爆と俳句 永田浩三 (大月書店)

911

生殖記 朝井リョウ (小学館)

911

さかさ星 貴志祐介 (KADOKAWA)

911

せんさいなぼくは小学生になれないの?

沢木ラクダ (小学館)

911

新しい恋愛

高瀬隼子 (講談社)

911

ピロードの耳あて イーディス・ウォートン (国書刊行会)

93

図書室で読める雑誌

〈月刊誌〉

中央公論

文藝春秋

東京人

世界

婦人公論

婦人之友

教育

月刊公民館

月刊社会教育

社会教育

月刊福祉

きょうの健康

栄養と料理

芸術新潮

&プレミアム

キネマ旬報

音楽の友

山と溪谷

本の雑誌

現代詩手帖

新潮

図書

ちくま

未来

〈週刊誌・週刊紙〉

AERA

週刊文春

図書新聞

週刊読書人

〈その他〉

サライ (月刊)

ふえみん (月3回刊)

明日の友 (隔月刊)

くらしと教育をつなぐWe (隔月刊)

暮しの手帖 (隔月刊)

多摩のあゆみ (季刊)

Choc. いさい・おおきい・よわい・つよい (不定期刊行)

〈外国語新聞〉

東亜日報 (ハングル)

人民日報 (中国語)

ジャパン・タイムズ (英語)

〈外国語雑誌〉

新東亜 (ハングル)

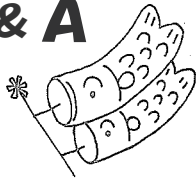
青年文摘 (中国語)

読者 (中国語)

タイム (英語)

ひらがなタイムズ (日本語と英語)

公民館図書室 Q & A



Q. 公民館図書室の開室時間は？

A. 午前 9 時～午後 5 時 (水曜日・土曜日は午後 8 時まで)
祝祭日は、休室日をのぞき、午前 9 時から午後 5 時まで開いています。
【休室日】月曜・年末年始・蔵書点検期間

Q. 国立市内の他の図書館で発行した図書利用カードは使えますか？

A. 使えます。国立市内の他の図書館と共通のカードになります。

Q. 図書利用カードを新しく発行したい。またはカードの有効期限が切れてしまった。

A. 国立市に在住の方は窓口へご住所を確認できる書類をお持ちください。国立市に在勤・在学の方は、ご住所を確認できる書類に加え、在勤・在学であることを証明できる書類をお持ちください。

《図書カードお持ちの方は以下のことができます》

- 図書館ホームページからご自身でパスワードを登録できます。パスワードを登録するとホームページから資料の予約や利用状況の確認、貸出延長等ができます。
- スマートフォン等でスマートフォン版図書館ホームページにログインすると図書利用カードのバーコードを表示できるようになります。

その他、国分寺、府中、立川、日野市民の方も相互協定の図書利用カードを発行できます。



■ 詳しくはお問い合わせください。

公民館図書室では、公民館で実施している講座の参考となるような本を揃えています。現在実施している講座の参考図書コーナーなどもありますので、ぜひご利用ください。

5 月は、ゴールデンウィークに母の日と華やかな日々が続きます。「母の日」というと花を贈り感謝を伝える人も多いかもしれせん。今年、改めて「母」という存在に思いを馳せてみてはいかがでしょう？「母」に関連した二冊を紹介します。

一冊目は宮地尚子さんの『ははがうまれる』です。宮地さんは多くの人のトラウマと向き合ってきた精神科医。彼女が子育てをテーマに 2010 年から 15 年にかけて月刊誌『母の友』に掲載したエッセイをまとめたものが本書となります。本のタイトルにひらがなの「はは」を用いたのは「ひらがながもつ、何かが始まる前の未分化な感じ」を表現したかったからとのこと。一方、漢字の「母」には「柔らかさや、あたたかさ、包み込むような感じ」がイメージとしてついてまわがちであるが、実際に「母」であることは「必ずしも簡単なことではなく、いつでも優しい慈母のようにはいられない」とも言います。「赤ちゃんの泣き声に腹が立つ」「子どもとの話題が見つからない」「結婚相手との習慣の違いに戸惑う」など人間が新たな人間と出会い、家庭を育んでいく。その際にきれいご

田久保薫子

〈私の本棚から 第2回〉
宮地尚子著
『ははがうまれる』
クオン・ジョンミン著
『おかあさん観察図鑑』



とでは済まされず、息がつまりそうな時に寄り添ってくれる一冊です。子育てに限らず「援助職の人たちこそまずセルフケアが必要」とも説き、より広い視点からケアをする人々の存在が意識されています。

もう一冊は韓国発の絵本、クオン・ジョンミンさんの『おかあさん観察図鑑』です。この絵本の魅力は「赤ちゃんの視点」から母親の生息を描いた点です。産後間もない母親の顔つきや睡眠、トイレの様子が赤裸々に。必死なお母さんを赤ちゃんと見つめる逆転の視点が新鮮！時に赤ちゃんがお母さんを皮肉る場面まで、子育ての現状がユーモアたっぷりに描かれています。

「すべてのことがはじめての世界で、さびしく孤軍奮闘している生まれたてのおかあさんたちを思いながら、この本をつくりました」と著者。

絵本に出てくるお母さんはバッグに本(『自分ひとりの部屋』『ヴァージニア・ウルフ著』を一冊忍ばせていたり、離乳食について研究している机の上には『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か？』(カトリン・キラス・マルサル著)を置いています。放送作家として活躍した著者が描く母親像にも注目すると、現代における「母」という存在がより興味深いものとなります。漢字はふりがな付きのため小さなお子さんと読んでみることもできます。

あなたと共にうまれたお母さんを今一度想いながら、母の日を過ごしてみませんか？

・『ははがうまれる』 (福音館書店)

・『おかあさん観察図鑑』 (NHK出版)